

カリキュラム

機構施設名： 岡山職業能力開発促進センター

実施機関名： 一般社団法人香川県中小企業診断士協会

バックオフィス	新技術活用	クラウド活用入門
---------	-------	----------

コースのねらい	クラウドに関する基本的な知識、サービス及び利用方法を理解し、クラウドを活用した業務展開の企画提案の知識と技能を習得する。
---------	--

	「基本項目」	「主な内容」	継続時間 (H)
講義内容	1 クラウド	<p>(1) クラウドとそれ以前のシステムは何が違うのか？ ITの本質は、「情報」とその「処理」です。それはコンピュータ登場以前からずっと続いている人類の生産活動です。なぜ、紙の処理ではいけなかったのか？なぜ、昔のExcelによる管理ではいけなかったのか？なぜ、クラウド化が広まっているのか？あまり触れられることのない、「そもそも」の本質から順を追ってご説明します。</p> <p>(2) クラウド化はヒト・モノ・カネにどんな影響を与えるのか？ クラウドとは平たく言えばインターネットを通じたIT利用のことですが、企業活動に与える恩恵は決して小さくありません。クラウド化によってどのように人の活動を変えられるのか？どんな資産が不要になるのか？どんなコストを削減できるのか？具体的なメリットや目的を整理します。</p> <p>(3) クラウド活用は中小企業のためにこそある？ クラウドを利用することによってハード/ソフト両方の投資や導入期間を減らせるだけでなく、その「質」までも大きく向上させることが可能です。もはや高度なIT活用は大企業だけのものではありません。ここではほぼ全ての企業に当てはまるクラウド化事例として、コミュニケーションツールとストレージサービス(資料管理)についての利用モデルをご紹介します。 【演習】まずは体験！基本的なサービスを使ってみよう</p>	2.0
	2 クラウドサービス	<p>(1) SaaS ～最も身近なクラウド利用形態～ PCIに重いソフトウェアをインストールしなくても、インターネットブラウザや軽快なアプリから高機能なサービスを利用できるクラウドの利用形態である、SaaS (Software as a Service)。基本無料で使えるものも多く、中小企業や個人事業者向け講師イチ押しサービスの多数をご紹介します。 【演習】よくある課題を解決するクラウドサービスを探し、提案してみよう</p> <p>(2) PaaS ～よりカスタマイズ性を求めるなら～ 厳密にはPaaSとはOSやミドルウェアなどに基本的な設定だけが用意されたクラウド環境を指しますが、その前提に触れつつ、ここではグループウェアやECサイトなど、外注も含めるレベルで「自社向けに大きなカスタマイズが必要なクラウド (PaaS寄りのSaaS含む)」についてご紹介します。 【デモ】ネットショップ構築レベルのいろいろ</p> <p>(3) IaaS ～自社だけのシステムという競争優位～ 厳密にはIaaSとはOSやミドルウェアすらないインフラ(サーバーやネットワーク機器)だけが用意されたクラウド環境を指しますが、実際にはこのレベルでクラウドを構築する中小企業はかなり限られるでしょう。その前提に触れつつ、ここではホームページ制作や自社システム開発などPaaSも含めた「唯一無二の自社オリジナルのクラウド開発」をテーマとしてその仕組みと注意点をご説明します。</p>	2.0
	3 クラウドの利用	<p>(1) クラウドサービスの選定基準を作ろう(管理者の視点) クラウド利用の第一歩！どのようにクラウドサービスを選定すれば良いのか？選定基準はコストや効率化だけではありません。長期運用やサービスの乗り換えを想定した「管理者」としての視点を中心に、自ら選定する場合、また社内での利用を求める声が上がった場合に検討すべきポイントを整理します。</p> <p>(2) 実践的セキュリティ対策(ハッカーの視点) クラウド派と社内派に分かれ、どのように標的とした企業の機密情報を盗み出すか、あるいはどのように復旧不可能な状態まで企業のシステムとデータを破壊し尽くすかといったロールプレイングを行います。また、攻撃に対してどのように対策の仕組みを実現するかのご説明を行います。 【演習】意外と物理的！？サイバー攻撃とセキュリティ対策</p> <p>(3) DXの浸透と求められる常識の変化(ユーザーの視点) クラウド化を含む社会のDX(デジタルトランスフォーメーション)の流れ中で、ビジネスマンとして振る舞うべき「常識」が実は従来とは変化してきています。非同期コミュニケーション、会議のあり方など、テレワークも含め新時代のクラウドツールをフル活用してビジネスを効率的に進めるための考え方・働き方をご紹介します。 【デモ】クラウドを使ったデータ収集とリアルタイム集計</p>	2.0
合計時間			6.0

訓練に使用する機器等	
●機器・ソフトウェア(受講者用)	●機器・ソフトウェア(講師用・その他)
●使用するテキスト	●その他
自作テキスト	
利用事業主に用意を求める機器等	備考
スマートフォン、可能な方はインターネット接続可能なPC	